



みどりのきずな

平成 27 年 3 月 31 日発行 第 25 号

編集: 緑区地域福祉計画推進協議会広報部会 発行: 緑区地域福祉計画推進協議会事務局 緑保健福祉センター内

TEL:043(292)8142 FAX:043(292)8276



えっ！トランプにも点字！？



白杖を使いガイドヘルプ体験学習

障がい者と健常者が共生できる社会 —福祉教育出前講座—

委員長 岡本 博幸

白杖を左右に振りコツコツの音が響く。「もっと左、ここから階段1段2段、椅子に座って、階段を降ります。」補助者の児童が声を掛けあい、目隠しをして白杖を持った児童の体験学習が行われた。目隠しを取るとほっとした表情を浮かべ「足が進まなかった。おっかなかった。はらはらした。とても不安だった。」と安堵感の会話があちこちで話されていた。この様子は、越智小学校3年生の福祉教育出前講座で緑区推進協議会委員の廣田健次さんの授業のひとつコマです。

「障がい者、高齢者、小さい赤ちゃんのいるお母さんなど、周りに困っている人がいないかみんなが少し気にかけてくれるととても助かります」という言葉から出前講座が始まった。講義は廣田さんの成育歴から話された。(①未熟、未発達、1,350gで生まれ、目が育っていなかった。②土曜日にピアノの練習があった。③なわとびの三重跳び・後ろ二重跳び、持久走が好きだった。④近所に同じ学校の友達がいなく一人で遊んでいた。友達がいけないことは退屈だった。)一緒に遊びたかったという話は児童の心に残る話であった。

次は白杖の大切さでした。視覚障がい者にとって白杖は眼であり、耳であり、言葉であることを体験を通し話していった。(①歩道・ホームの点字版の役割②ホームから転落した体験③警報機の無い横断歩道の渡り方④車の音、人の行動気配を感じて行動すること)このような時は声をかけて頂くか、手を添えて頂けると大変嬉しいとの話だった。このことが障がい者と健常者の壁を無くす第一歩であり、是非実行してほしいとの願いであった。

続いて、視覚障がい者の生活上欠かせない事を実演していただいた。(①点字機をうつ様子と触手での読み方②時刻がわかる時計の読み方③携帯電話の受発信の仕方)廣田さんの周りに児童が集まりその様子を見学した。障がい者が自立して生活していくのには健常者では普段考えられない苦労があることを学んだ。

最後に①障がい者は特別な人ではない②地域には障がいをもった人も一緒に生活している③高齢者等で困っている人がいる、それらの人の立場に立って考えられる人になってほしい。その行為が誰もが住みやすい地域社会を構築していくことに繋がるのだということを強調し授業の結とした。

(4 ページに廣田さんの感想記事があります)

椎名地区

「お元気ですか？」お話ししょう！



師走に 80 歳過ぎでひとり暮らしの高齢の方に手土産を持って訪問し、四方山話に花を咲かせました。皆さんすごくお元気でした。

ふれあい食事会の後の楽しみは？

童謡・唱歌を唄って
ビンゴでわいわい、
今年の運勢は？



地域で子ども達を見守っています

11 月 15 日「しいのみ祭」でのきずな



地域住民が講師になり、むかし遊びやモノづくりを一緒に楽しみました。

12月5日 学童から「感謝の会」



日頃の見守りや食育教育支援などに対し、学童が地域の方を招き、学習の成果を披露し、一緒に食事もしました。

誉田地区

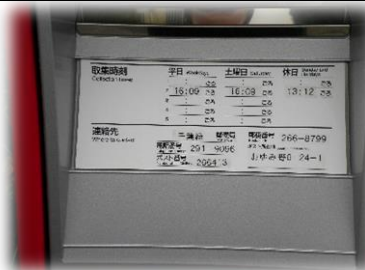
20 数年前おゆみ野第二団地自治会は郵政省と N T T に対して郵便ポストと公衆電話の新設を申請しました。しかしポストは条件が揃わず却下、公衆電話はちょうど携帯電話が流行ってきてむずかしくなりこれも却下となり話は途絶えてしまいました。今回、会員さんから近所にポストがなくて不便なので何とか考えられないかとの話があり我々役員も同じ考えでしたのですぐ調べてみることにしました。

最近の新設はコンビニが多く住宅街の新設は少ないようですが可能性があることがわかりましたので年末に間に合うよう申請しました。そして待つこと約 3 カ月、10 月 9 日（木）に設置されましたので年賀状に間に合いました。収集は 1 日 1 回ですが回収量が少ないと撤収の可能性もありますので近所の方々に声掛けをしポストの利用を増やしてまいりたいと思います。

最初の投函



収集は 1 日 1 回 16 時ころ



土 気 地 区

土気高校みんなが認知症サポーター

H25 年 6 月の厚生労働省研究班の発表で 65 歳以上の 4 人に 1 人が認知症もしくはその予備軍という調査結果がでています。今後日本社会の高齢化に伴い認知症高齢者の更なる増加が予測されます。

認知症サポーターとは認知症について正しく理解し、認知症の人やその家族を見守る応援者のことをいいます。

認知症サポーターを一人でも増やし、安心して暮らせる町をみんなで作っていくことを目指し日本全国で認知症サポーター養成講座が展開されています。

千葉市あんしんケアセンター土気では土気地区にある銀行や学校に対して講座を行っており、H26 年 11 月に土気高等学校 1 年生を対象に 1 クラスずつ全 8 クラスに認知症サポーター養成講座を開催しました。

3 年前から取り組みを始め、今回で土気高校生 960 人全員が認知症サポーターになりました。受講した生徒からは「認知症のことは知らなかったけど、認知症になってしまった人もとても苦しんでいることを知りました」

「地元にもお年寄りが多いので、助けてあげたいなと思った」などの感想を聞くこともできました。

今後の超高齢社会を見据え、認知症に対する社会的な理解を広め、認知症の人が安心して暮らせる地域社会を作っていくことが今求められています。



お ゆ み 野 地 区

減災セミナーに参加して伝えたいこと

おゆみ野女性の会主催の減災セミナーを 1 月 24 日午後に鎌取コミュニティセンターの会議室で開催しました。講師はまちかど防災『減災塾』塾長の水島重光さんです。8 個のチェック項目の確認から入り、タンスが地震で転倒する心配はありませんか？タンスは自力では動きません。緊急地震速報を聞いてどう行動しますか？まず、安全な場所に移動して、地震がおさまってから次の行動にでるのが得策。子どもたちは学校で地震時の避難行動ができています。でも自宅に帰ると実行されないのは家族間で地震時の行動を話し合っていないからとのこと。自宅にいる時間帯に地震が発生する頻度は高いようです。『自らの命を守ることが第一歩』そして行政の救援物資は主に 4 日後から・・・日頃から家族 7 日分の備蓄をしましょう。

減災 3 原則は①身を守る自助

②生き抜く自助と共助

③助け合う共助と公助

地域住民の交流の場

毎月第 1・3 土曜日、第 2・4 日曜日の午前中、ゆみ～る鎌取店前広場（遊歩道）にて「ふれあい市」を開催しています。新鮮野菜や手作り品の売上の一部を「ふれあい市実行委員会」へ寄附していただき、会の運営費に充てます。

活動内容は、ふれあい市の夏祭り・ゆみ～る市民音楽祭・キャンドルナイトの開催。地域のイベント（四季の道駅伝・さくらさくさくウォークラリー）へ協賛金として寄附しています。



委員の一言 コ-ナ-



千南会（千葉市精神障害者南地域家族会）

精神障がい者は、現在増加しております。
例えば統合失調症の患者は若い人に発症しやすく100人に1人（以上）、うつ病は4人に1人は発症すると言われています。そうした現状からガン、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病と共に5疾患の1つとして数えられるようになりました。こうした精神の病にかかる人達は大変優しい心を持っています。そして地域に自立し幸せに生活しようとしています。

精神障がい者の家族は我が子のケアのために日夜大変苦勞をしています。私たち家族会はこうした家族の皆様への心の支援をするための活動をしています。更に現在は入会した家族だけではなく、ひきこもりの精神障がい者をもつ家族にも支援の手を差し伸べています。

千南会は平成8年9月に発足し、幾多の経験を重ね現在に至っておりますが、現在30名程の家族が参加し活発に活動をしています。家族会の活動の概要は右の通りです。

■千南会が目指すもの

- 支え合うこと：「集まって」「語り合い」「自分一人ではなかった、こんなに大勢の仲間がいるんだ」という安心感を抱きわかり合える思いに癒され元気を得ること。
- 病気、リハビリ、福祉制度などの社会資源等について「学習活動」を行うこと。
- 本人、家族が安心して生活していくために、地域の人々の理解を得、偏見をなくすための「運動」を展開する。

■千南会の活動

●例会

日時：毎月第3土曜日 13時30分～15時30分
場所：緑保健福祉センターなど

●おしゃべり会（相談）

日時：毎月第2・第4金曜日 11時～15時
場所：支援センター「たけの子工房」C棟

●親睦旅行

年1回程度

●会報の発行

年2回

■連絡先

〒266-0007 千葉市緑区辺田町120-4
支援センター「たけの子工房」内 「千南会」
TEL・FAX 043-292-1239

福祉教育出前講座の感想 廣田健次

3年生への「福祉出前講話」との事で、1月28日に、市立越智小学校を訪問しました。小学校は、はなみずき台団地の中、村田川や大藪池が近くに在り、自然豊かな環境に囲まれていました。

「視覚障がいを持つ人の、普段の生活の様子」について知りたいとの事でしたので、そんなお話をした後、目隠しをして白杖を持ち、歩く体験をしてもらいました。

子供達は、とても元気。私の話をしっかり聞き取ろうとするエネルギーにあふれていて、緊張しながらも、楽しく過ごす事が出来ました。1月9日に、視覚障がい者スポーツ「ブラインドサッカー」を体験している事もあり、視覚障がいへの

関心も高く、歩行体験にも楽しそうに取り組んでくれました。

校長先生はじめ、私達を温かく迎えてくださった越智小学校の全ての方々、本当にありがとうございました。

編集後記

緑区地域福祉計画の推進に携わって早10年が経ちました。高齢者・障がい者の外出支援を中心に地域の足として交通問題の解決のため、NPO活動をしてきました。2025年問題（団塊世代が75歳に到達）を考えた時、活動によって蓄積されたノウハウを次の世代に引き継げる様、努力します（K. N）